東久留米

教育委員会だより

第 58 号
令和3年（2021）
3月15日発行
編集発行　東久留米市教育委員会
〒203-8555東久留米市本町3－3－1
電　　話　042(470)7777

拡大版
シリーズ 教育委員会の動き
～教育行政が目指す50年前も現在も変わらないこと、変わってくること…

令和2年（2020年）、東久留米市は市制施行50周年を迎えました。市に移行した「昭和45年（1970年）」はどんな年だったでしょうか。

銀座や新宿では「歩行者天国」が設置され、大阪で開催された万国博覧会ではアポロ11号が地球に持ち帰った「月の石」が展示されたりと、大変な人出の様子が連日報道されていました。一方、民間航空機がハイジャックされたり、日本における初めての光化学スモッグの発生が都内で報告されたり（独立行政法人・環境再生保全機構のＨＰから）、世相に影を落とす出来事も起こりました。

教育界でもこの50年間、国や東京都の教育方針や施策の転換があり、市の教育施策も見直しを図ってきました。今号では毎号のシリーズ「教育委員会の動き」の視点を拡大し、50年前の教育委員会の会議の議題から窺（うかが）える、市の教育事情を紹介します。

学校施設の建設ラッシュ真っ只中

当時も、まちに活気が溢れていました

昭和45年の教育委員会の案件から当時の課題を見ると（表1）、「学校施設」に関する話題が多くあります。

現在、東久留米には市立小学校12校、中学校が7校設置されていますが、昭和45年当時は第一小学校から第九小学校までの8校と（第八小学校は翌年度開校）、久留米中学校、東中学校及び西中学校の3校が設置されていました。

この時期、東久留米市の急激な人口増加により、子どもの数も増加しました（昭和41年児童数4010人が昭和46年には8684人と2倍を超え、生徒数も1349人から昭和46年には2420人と2倍弱の増加）。教育委員会の会議においても毎回のように補正予算が議題とされ、急激な人口増加に伴う児童・生徒数の増加への対応を図っていました。

第九小学校は第八小学校よりも1年早く開校することになり、第七小学校の校庭に建てられたプレハブの校舎で仮設運営されていました（昭和44年度に8教室、45年度は12教室に増設され同年10月完成）。

第八小学校は昭和45年4月から、就学予定児童270人・9学級で、第五小学校内に仮設運営されていました（第八小学校は平成21年度閉校）。給水場を候補地とした第八小学校の敷地確保には大変な困難があったようで、「第三小学校と第五小学校の児童数倍増の緩和を図るため、6300坪が無理な場合は4000坪であっても確保したい」と、当時の教育長が述べています。

祝 第九小学校は令和２年度に創立50周年を迎えました（関連記事３面）。

また、学校施設については新設だけではなく、既設の体育館や手狭になってきた校舎の改築等についても検討されており（表1／第8・9回）、さらに学校の新設に伴う通学区域の変更についても、保護者や地域の方々との話し合いが頻繁に行われていました。しかし、解決に至ることが困難であったようで、「原案で納得してもらえない場合は第八小学校を建設する意味がなくなる」と、定例会における教育長の発言からも危機感が伝わります（表1／第1回・第2回・第12回・第14回）。

東久留米っ子だけど小平市の学校へ通学

小平の友達ができたよ

一方、急激に増加した就学年齢の子どもの受け入れを本市だけで対応することが難しくなってきたため、近隣自治体（当時の保谷町・小平市等）の協力を得ていました。

昭和45年当時、東久留米市は小平市との委託協定により（表1／第4回）、本市の西部地区（柳窪3丁目、弥生1・2丁目）在住の子どもたちは、小平市立の小・中学校に通学していました。対象の小学生は76人、中学生は15人でした）。

昭和45年度の委託料は、小平市の同年度の教育予算から教職員等の人件費分を除いた額を同市の児童・生徒数で除した額で、一人当たり約6500円でした（本市の昭和45年度決算額による）。

その後、昭和47年度には第十小学校と南中学校が、昭和49年度には小山小学校と大門中学校が、昭和50年度には神宝小学校、滝山小学校（平成15年度閉校）及び南町小学校の3校が、昭和51年度には本村小学校が、そして、児童数が1万3063人のピークを迎える昭和54年度を前に、53年度には下里小学校（令和元年度閉校）と下里中学校が、さらに、昭和59年度には中央中学校が立て続けに開校されたのです。

教育センターの重要な役割

もしもし教育センターですか…

昭和44年（1969年）、上の原2丁目にあった第四小学校内（平成23年度閉校）に、久留米町教育センターが開設されました。当初は、「科学教室」と「教育相談部」が置かれました。「科学教室」を支えるため、科学や天文教室の指導員には全校から教諭が任命されており、「科学教育の振興」がセンター事業の大きな位置を占めていたことが分かります（表1／第9回）。

教育センターのもう一つの大きな役割である「教育相談」。50年前はどのような相談があったのでしょうか。

開設当初の昭和44年度の報告書によると相談件数は34件（幼稚園入学前後の幼児12件、小学生21件、中学生ゼロ、成人1件）で、学習面や登校拒否という学校生活に関わることよりも、「引っ込みじあん」「落ち着きがない」など、子どもの性格についての相談が多かったようです。

その後、平成10年（1998年）には教育センターに「学習適応教室」が設置され、子ども一人ひとりの状況に合った、より丁寧な学習面での相談が行えるようになりました。現在の教育相談室は2個所あり、いじめや勉強などの学校生活の悩みを相談できますので、ご利用ください。

◎中央相談室（教育センター内）☎473・3667◎滝山相談室（令和2年4月から西部地域センター内に移転）☎475・8909

今とは違う教科書採択

教科書は大事なことがまとまっているよ！

授業の柱となる「教科書」。令和2年度は、令和3年度から6年度まで市立中学校が使用する全教

（2面に続く）

〔今号の主な内容〕1面は「特集・拡大版 教育委員会の動き」、2面は「総合教育会議を開催」、3面は「学校の取り組み」、4面は「市制施行50周年記念～歴史に学ぶ」です。

〔表１　昭和45年教育委員会の主な議案・報告案件〕

◎第1回（1月13日）【議案】第八小学校の開設▼第九小学校の開設▼小学校児童の通学区域に関する規則の一部改正　【報告】（仮）第九小学校の件▼第一小学校舎の改築▼東久留米団地内の公立幼稚園の設立

◎第2回（2月20日）【議案】第九小学校所在地▼昭和45年度教育予算原案　【協議】第八小学校・第九小学校の通学区域問題

◎第3回（2月24日）【議案】久留米町立学校開設変更に関する件

◎第4回（3月6日）【議案】小平市委託児童生徒の協定の更新▼小平市委託児童生徒の協定

◎第5回（3月20日）【議案】第九小学校長候補者内申

◎第6回（3月30日）【議案】第九小学校教頭候補者内申

◎第7回（4月2日）【議案】町職員の異動【報告】請願（西中学校体育館の新築、第九小学校開設、第一小学校改築ほか）

◎第8回（5月15日）【議案】一般会計（教育費）補正予算（5月）原案　【協議】教科書採択▼体育館の建設

◎第9回（6月17日）【議案】一般会計（教育費）補正予算案（6月）▼第一小学校危険校舎用途廃止▼久留米町立教育センター役員の委嘱

◎第10回（7月20日）【議案】一般会計（教育費）補正予算（6月）原案（修正）【報告】子供・婦人図書館の運営

◎第11回（8月7日）【議案】昭和46年度小学校使用教科用図書採択▼一般会計（教育費）補正予算（8月）原案

◎第12回（9月1日）【議案】一般会計（教育費）補正予算（9月）原案▼久留米町教育委員会に関する条例等の全文及び一部改正▼小学校児童の通学区域に関する規則の一部改正

◎第13回（10月1日）【議案】一般会計（教育費）補正予算（9月）原案

◎第14回（12月7日）【議案】一般会計（教育費）補正予算（12月）原案　【報告】第八小学校の通学路▼公立幼稚園の名称　▼請願（第五小学校屋内体育館設置）